

## 令和元年度第1回青森市健康福祉審議会 地域福祉専門分科会 会議概要

- 1 開催日時 令和元年7月23日(火) 午前10:00～午前12:00
- 2 開催場所 青森市福祉増進センター(しあわせプラザ)3階 大会議室
- 3 出席委員 浅利 義弘 委員、天内 勇 委員、北澤 祐一 委員、工藤 昭 委員、  
工藤 功篤 委員、児玉 寛子委員、今 一志 委員、杉本 正 委員、  
鳥山 夏子 委員、三浦 裕 委員、村上 秀一 委員、  
安井 眞木子 委員  
《計12名》
- 4 欠席委員 加川 幸男 委員  
《計1名》
- 5 事務局 福祉部長 舘山 新、福祉部次長 福井 直文、  
福祉部福祉政策課長 白坂 孝志、福祉政策課主幹 藤林 靖幸、  
福祉政策課主事 佐藤 有希菜  
《計5名》
- 6 会議次第
  - 1 開会
  - 2 福祉部長あいさつ
  - 3 委員紹介
  - 4 地域福祉専門分科会長職務代理者の指名
  - 5 案件
    - (1) 青森市地域福祉計画の取組状況について
    - (2) 担い手の育成・確保及び支え合い体制づくりについて
  - 6 その他
  - 7 閉会

## 7 議事等要旨

### 会議次第 4 地域福祉専門分科会長職務代理者の指名

児玉会長から三浦委員が分科会長職務代理者に指名された。

分科会長職務代理者 三浦 裕 (青森県社会福祉法人経営者協議会 監事)

### 会議次第 5 案件

- (1) 青森市地域福祉計画の取組状況について
- (2) 担い手の育成・確保及び支え合い体制づくりについて

[資料 1~4 参照]

事務局より配布資料に基づく説明があった。(資料 3 については、本計画の重点事業及び各章の目標指標を中心に説明)

### 意見・質疑応答

(議長)

気になるところ、ここをもう一度説明してほしいとか質問したいとか、ご意見等いただきたい。

(委員)

私のところでは児童福祉施設を運営しており、子どもたちを専任の職員が支援しているが、子どもたちの問題は地域が発生源だったりする。職員によく言っていることは、施設の中ばかりだけではなく、外を見回して発生源となっている課題を解決しなければならないということ。地域と結びついて内向きの事業ではなく、外に向けた事業をこれから展開していくことになると思う。例えば、地区社協や包括支援センターと組んで、地域の様々な問題を取り上げて、地域の課題の意識を啓発していく努力をしていく時代にきているのではないかなと思う。

(事務局)

社会福祉法人側、各地区社協側のどちらかとは言わず、どちらからでも能動的な交流をイメージして地域福祉を進めたいと考えている。

(議長)

地域にある社会資源であったり、法人であったり、民間の方であったり、お互いが何か動きたい、求め合っているところで、そのつなぎやきっかけが作れないでいるという印象を受

けたので、資料4に書いてあるような支え合いの体制づくりがひとつのきっかけで、うまく結びつくような形になってほしい。

(委員)

老人会が縮小していつているが、高齢化社会の中で誰がどう支えたり、絆を作っていくのか、受け皿になるのは老人クラブだろうと思う。

だが、老人クラブで事業をやっても誰も来ないと、支え合いも触れ合いもできない。地域の中であっても、社会性がないとか協力性がないといけない。私は、死ぬまでそれを課題に頑張っていきたいと思っている。

(議長)

高齢者の方々を支えられる側が支える側へという話のとおり、元気な高齢者の方々や老人クラブの方々を何とかそういう気運に持っていけるように、会長のほうでも働きかけていただければと思う。

私のほうからサポーターの登録者数は増えているが、活動割合が伸び悩んでいる背景をお知らせいただきたい。

(事務局)

なかなか活動割合が伸びない背景として、例えば、こころの縁側づくり事業の中で、介護予防や茶話会、お食事会の手伝いボランティアに参加したときに、その地域でもともとボランティア活動をしている方々の輪の中に一人で来たボランティアの方が、入っていくことが難しいという状況があった。

実際にボランティアセンターの職員が新しく登録したボランティアの方と同行して感じたものであるが、そういった事情もあり、登録者が増えても実際の活動が伸び悩んでいる。

(議長)

難しいところではあるが、ちょっとした仕掛けがうまく働けばいいと思う。

(委員)

地域づくりのこれまでの取組経過を説明いただき、少しずつではあるが進展しているという印象を受けた。例えば、こころの縁側づくり事業は、地域の交流事業の場としてキーになる場所ではないかと思うし、開催回数も増えている。地区社協がメインだが、それ以外の、例えば住民の方々の自主活動のようなサロンづくりに関しては、予算立てを考えることは難しいか。

(事務局)

これまで、こころの縁側づくり事業は、まずは38すべての地区社協での開催を目標に取り組んできた。昨年度、38地区社協で開催できたことから、今年度からは開催回数の多い地区に差をつけて補助をするというインセンティブを与える形で取り組んでいる。今後、委員から出たような意見も踏まえ、制度自体を変えていくという考えもあるが、まずは、開催回数を増やしていこうという考えのもと進めている状況にある。

(議長)

まずは、なるべく活発化していこうという方向で進めていくという、新しい動きが出てきているようである。

(委員)

資料3の3ページを見ると市民後見人の研修会、フォローアップ研修を開催し、延べ53人が受講している。現在、市民後見人の数と後見人として活動している方はどのくらいか。

(事務局)

昨年度の末に1名が市民後見人として家庭裁判所から指定を受けているが、まだ活動は行われていないという状況である。

(委員)

アンケートの中に、今後市民後見人としての活動を希望するかしないかという項目があり、皆が「します」と書いているかと思う。実際は1名だけの登録ということではよろしいか。

(事務局)

現在は1名となっている。皆様に意思確認ということでアンケートを取らせていただいているが、家庭裁判所とのマッチングもあるので、なかなか増えない現状にある。

(委員)

ボランティアポイントについて、年間最大50ポイントで商品券5000円分とか市営バスの無料券とかはモチベーションとして良いと思う。今後、ボランティアに対する理解が深まって人数が増えた場合は、例えば65歳まで貯めたポイントを、65歳になったら同じように、雪かき10ポイント、何10ポイントと、ポイントとして使えるようになれば、お金もかからないし、そういう理想的な社会になったらいいなと思う。

(議長)

ポイントの使い方を広げていくためには、やはり使いやすい身近な形に変えていけたらいいと思う。

(委員)

こころの縁側づくり事業について、回数が必要だと。これもひとつの考え方だと思って聞いていた。私たちのところは月1回しかやっていないが、場所に一番困っている。農村センターを使うと午前中で700円かかる。こころの縁側づくり事業は、非常に良い事業だし、私たちもその事業の恩恵を受けているが、高齢者は無料でおいしいもの食べたりできると喜ぶ。資源ゴミの回収をしたり、年会費を集めたりしているが、米寿祝いなど様々な事業を月1回行うことになれば大変嬉しい。

場所については、これからは空き家対策だと思う。集会場所がない老人クラブがあって、運動会の反省会を外で行ったこともあった。これから高齢化が進むと、全員が歩けるという時代ではないので、なんとか集落にそういうものを確保したいと思っているが、考えがあったら教えていただきたい。

(事務局)

こころの縁側事業を月に1回行うときに食事を出したり茶話会のような形で、お茶やお菓子を出して行えば、人が集まるのは承知している。ただ、飲食のみならず、例えば健康運動とか日ごろから何気を集まって、そこで会話をすることで、いわゆる介護予防につながっていくということも大事な目線と考えている。補助金の使い方は各地区で、より多くの回数を行い、より多く出してもらえるような工夫をしていただきたいと考えている。

空き家対策については、その所有者が許可すれば活用することは可能かと思うが、所有者が分からない空き家もある。補足となるが、空き家を仮に集会所として使用しようとした場合、所有者探しやメンテナンス、建築基準法、消防法などの壁がある。

(委員)

資料4の説明に関連して、障がい者支援施設で実際に行われている活動として、就労Bの事業所で一人暮らしの高齢者の間口除雪を行っているというケースがある。流れとしては、民生委員の定例会に、地域活動支援センターもしくは地域包括支援センターの職員と一緒に、就労Bの事業所の方が行き、活動内容等を説明してもらったうえで、雪が多いときに間口の除雪にお手伝いに行くという体制ができたというケースがあるので、考えていただければと思う。

(事務局)

間口除雪を実際にやられているという事例は存じ上げなかったので、こうした可能性は、

どんどん広めて結び付けたいと思う。

(委員)

私の方の在宅介護支援センターの事業に、ロコモ体操がある。地域に人たちに集まっていただき、10人単位で1つのグループを組んでいる。地域の中で何か問題が起きた場合には、リーダーとグループメンバーが相談しながら解決していきましょうという組織でもあり、これを少しずつ増やしている。地域の組織化のひとつの方法としてはそういう方法もあるだろうし、いろいろと考えて、地域に合った組織化が大事なのだと思う。

(議長)

地域の声を吸い上げたうえでということになると思うが、民生委員はどうか。

(委員)

私の方は月に一回、一人暮らし高齢者を集めて食事会を開催しているが、必ず包括支援センターに来ていただき、血圧測定など様々なことを行っている。大体70歳以上の高齢者を集めて食事や様々な体操などをしており、喜ばれている。

(議長)

様々な地域で活動が散らばっているのが現状なのだろうと思うが、うまく組織化していくために支え合い会議が活用できていけば良いのかなという印象を受けた。

(委員)

資料にあった、あんしんお届け便がもう少し増えていくのであれば、就労B型の事業所と少し繋がりをもって、地域と障がいを持つ方たちとの繋がりができるのではないかなと思った。

(事務局)

あんしんお届け便は現在のところは流通団地店に1台しかないが、この地域における、例えば、こころの縁側事業でのお手伝いなど、地域との交流につながるような取組ができないか、貴重なヒントをいただいた。

(委員)

ボランティア活動のアドバイスとして、全国的に広がっている鳥取県の「あいサポート運動」を参考にすれば、もっと人材が増えるのではないかなと思っている。障がい者だけでなく高齢者など幅広くやれるような支援になっているので、参考にしてほしい。

(議長)

いろいろなご意見、アイデア、ヒント等をいただけたかと思う。動きは少しずつではあるけれど、計画が令和2年度までということで、さらにこれから進んでいけるように、今後も皆さんからもご意見を頂戴していきたいと思う。

(委員)

ずっと話を伺い、本当に皆さんも行政も頑張っていると思った。ただ、少し内容を整理されたほうがいいのかという印象を受けた。例えば、市社協、民生委員、地域包括、それぞれが頑張っているが、横の連絡をきちんと取りながら効率よくやらないといけないと思う。

また、最後のあんしんお届け便の話も非常にいいと思うが、もう少し整理してから会議等でお話いただいたほうが良いと思った。

(議長)

課題もまだいろいろあるが、ひとつずつ見極めながら進めていければと考える。

#### 会議次第 6 その他

青森市地域福祉計画について〔資料5参照〕  
事務局より説明があった。